

重要魚種の卵稚仔及びプランクトンの研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成8年度～)

担当：資源海洋科 吉田 彰

【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁業資源の漁獲可能量(TAC)を決定し、資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられています。それを受け、重要魚種については資源評価が行われ、対象魚種の漁獲統計や生物情報等の収集が行われています。

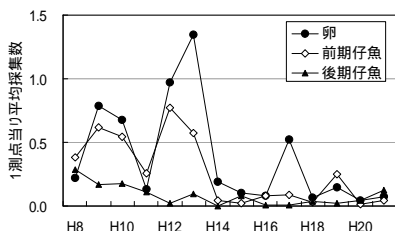
イワシ類、サバ類など重要魚種の卵稚仔についても、資源評価情報の一環として、出現状況の調査を行っています。この中で、静岡県周辺海域の卵稚仔・プランクトンの分布と出現状況を調べ、重要魚種との関連性を検討します。

【これまでに得られた成果】

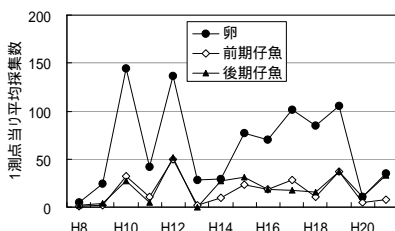
- ・ マイワシの卵・前期仔魚は、平成9～10、12～13年に比較的多く採集されました。平成21年の採集量は、卵・前後期仔魚とも前年を上回りました。
- ・ カタクチイワシについても、平成21年の卵・前後期仔魚採集量は前年を上回りました。
- ・ サバ類の卵は、平成10、13年に多く、10年は仔魚も多く採集されました。平成21年の採集量は、卵・前後期仔魚とも前年を下回りました。



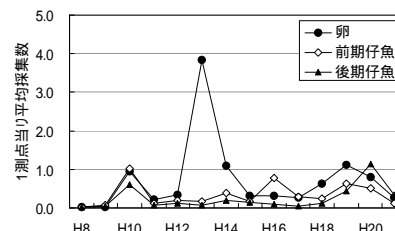
卵稚仔採集の様子



マイワシ卵稚仔の1測点当り平均採集数 (1～5月)



カタクチイワシ卵稚仔の1測点当り平均採集数 (1～5月)



サバ類卵稚仔の1測点当り平均採集数 (1～5月)

【期待される成果】

- ・ 卵稚仔の出現状況について全国的に情報が集積されることで、資源評価の精度が高まり、より有効な資源管理を実施することができます。
- ・ 卵稚仔の出現状況から、資源加入の把握等を行い、漁況予測につなげます。

【今後の計画】

- ・ 重要魚種の卵稚仔分布と漁海況変動との関連について検討します。
- ・ 沿岸へ加入する重要魚種の稚魚採集を行い、漁海況との関連について検討します。

(作成 平成22年4月)